

SPARC Japan ニュースレターでは、各回セミナーの報告に講演やパネルディスカッションを書き起こしたドキュメントを加え、さらにそのほかの SPARC Japan の活動をご紹介します。

※所属、肩書はすべて開催当時のものです。

CONTENTS

■ SPARC Japan 活動報告

**学術情報流通推進委員会
CLOCKSS の活動について**

■ SPARC Japan セミナー報告

**企画概要
参加者から
企画後記
ドキュメント
(講演・ショートディスカッション・パネル
ディスカッション)**

■ SPARC Japan 活動報告



学術情報流通推進委員会

学術情報流通推進委員会の会議資料をウェブサイトで公開しています。

<http://www.nii.ac.jp/sparc/about/committee/>

CLOCKSS の活動について

CLOCKSS は世界の主要な出版社及び図書館による非営利の共同事業で、持続可能で地理的に分散されたダークアーカイブ（アクセスが限定されたアーカイブ）を構築し、ウェブベースの学術文献の長期保存を行っています。出版社から電子ジャーナル等のコンテンツが提供されなくなった場合に、CLOCKSS を通して誰もが無料でそのコンテンツを利用することができます。

日本の支援体制

- 国立情報学研究所は、アジアにおけるアーカイブの「ノード」の一つになっています。2010 年度に CLOCKSS Box と呼ばれるアーカイブシステムを構築し、コンテンツの保存を行っています。また、日本での実務レベルの窓口を担い、日本の参加機関と CLOCKSS との仲立ちを行っています。
- 理事会(Board of directors)メンバーとして国立情報学研究所の武田英明教授が参加し、運営方針等に関する協議・採決に加わっています。
- 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)は、CLOCKSS の理念と活動を日本に広めるためのアドボカシー活動を行っています。

<https://www.nii.ac.jp/sparc/about/international/>

■ SPARC Japan セミナー報告



第1回 SPARC Japan セミナー2019

「人文社会系分野におけるオープンサイエンス ～実践に向けて～」

2019年10月24日（木） 国立情報学研究所 12F 会議室 参加者：54名

今回は、2018年度第4回セミナーに引き続き人文社会系分野におけるオープンサイエンスをテーマとし、オープンな研究活動が既に展開されている取組に注目しました。事例として、研究者による当該分野の基盤的データの構築と普及や、新たな研究データ作成や研究基盤の構築を目指す市民科学の活動を取り上げ、また様々なかたちで研究データを外部へ繋いでいく役割を担う URA の実践についても紹介し、人文社会系分野のオープンサイエンスを幅広く安定的に展開するためのヒントを共有できる企画といたしました。

次ページ以降に、当日参加者のコメント（抜粋）、企画後記およびドキュメント全文（再掲）を掲載しています。その他の情報は SPARC Japan の Web サイトをご覧ください。

<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2019/20191024.html>

企画概要



近年、オープンサイエンスの推進が分野を問わず学术界全体に求められており、人文社会系分野においても今後ますますオープン化を巡る動きが重要になってくると考えられます。当セミナーではこれまでも人文社会系分野に注目したセミナーを実施してきましたが、今年度は実践的かつオープンな研究活動が既に展開されている取組に注目しました。

今回のセミナーでは、言語学分野における基盤データの構築とそれを用いた研究活動振興等の実績がある国立国語研究所の取組と、研究者と市民が協働し新たな研究データ作成や研究基盤の構築を目指す市民科学の実践事例として「みんなで翻刻」の取組を、それぞれご講演いただきます。そして、研究者によるデータ構築と市民科学との間を繋ぐ媒介者としての役割を担う URA（リサーチ・アドミニストレーター）の取組についても論じていただきます。

これらの報告から、人文社会系分野のオープンサイエンスを幅広く安定的に展開していくための情報共有を試みます。また、オープンサイエンスと言うと研究者のものと思われがちですが、図書館職員や大学職員、出版関係者など多くの関係者が、それぞれの立場から「オープンサイエンスの実践」について具体的に考えられるような検討を行っていきます。



パネルディスカッション（左から鈴木氏、小木曾氏、加納氏、中村氏）

参加者から

(大学/図書館関係)

・オープン化したものやそのプロセスを社会の接点として広めていくという話をうかがって、人文系もオープンサイエンスにコミットしていける可能性を実感できました。

・「オープンサイエンス」自体は知っていたが、主に自然科学系向けのものだと思っていました。今回のセミナーで基本的理念（小野氏の講演）と具体的事例（小木曾氏、加納氏）の双方を聞くことができ、人文・社会科学系にも十分に適用できると思いました。

・人文系のオープンサイエンスの可能性を感じました。シチズンサイエンスへの取り組みは、大学にとっ

て必要な活動になるように感じました。

(企業/その他)

・シチズンサイエンスという切り口でのオープンサイエンスについて知見を得られた。

(その他/図書館関係)

・今後、自機関において研究データベースの構築や資料公開を進めていく上で、貴重な実践報告であった。オープンアクセスに対する捉え方や、目的に向けた解決法に関して、多様な経験を知ることができた。

(その他/大学・教育関係)

・市民科学のニーズについて理解できた。

企画後記



😊 2年連続で人文社会科学系をテーマとした企画をしました。「人社系は遅れている」「独特の文化があるので難しい」といった紋切り型の議論を抜け出す、具体的な動きを紹介できるセミナーになったと考えております。更に一歩進んで、どう先進的な動きにキャッチアップしていくのか、人社系の独自性を新しい動きにどう持ち込んでいくのか、といった議論も進めていきたいですね。登壇・参加いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

鈴木 親彦

(国立情報学研究所 / 人文学オープンデータ共同利用センター)

😊 昨年に続き、人文社会系分野におけるオープンサイエンスの回を担当しました。オープンサイエンスについては、私自身まだまだ茫洋としている感じがあります。だからこそ様々な事例を共有することで、オープンサイエンスを少しでも自分のものとして具体的に考えられるセミナーになればと思い企画しました。今回も講師の皆様から多くの情報を頂けたので、今後に活かしていきたいと思っています。

中村 美里

(東京大学附属図書館)

本誌についてのお問い合わせ

国立情報学研究所 SPARC 担当

E-mail co_sparc_all@nii.ac.jp FAX 03-4212-2375

<https://www.nii.ac.jp/sparc/>